

## 2011 年度 入学 試験 問題

# 国 語

(試験時間 15:00~16:00 60分)

1. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
2. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
4. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
5. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、電算処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(40点)

病いと戦う主人公はのちの力であって医療は助っ人なのだ、という原則がいつの頃から見えにくくなったのだろうか。またどうして主演と助演の役割があたかもひっくり返るようになってしまったのだろうか。パストゥールやコッホの細菌学の確立からその病原への抗生物質という有効な攻撃力を医学がもった時期を挙げることができるかもしれない。

(1)、化学工

業の発達を背景に人工的な製薬が発展した二〇世紀前半だろうか。戦争の負傷兵を助けるために点滴や人工呼吸器が発明された二〇世紀半ばだろうか。医学、医療の正確な歴史とその意義の解釈は専門家に任せねばならないが、どうも一九世紀から二〇世紀のどこかで、私たちは医学の圧倒的な発展に目を奪われて、病いと主に戦うのは医療だという幻想を抱かされてしまったように思う。

もちろん、それは医療のせいではない。医療技術の発展は人類にはかり知れない恩恵をもたらした。それは言うまでもないし、言いつくせもしないことである。どれだけの医学の先達が苦しむ人たちの思い浮かべながら日夜新しい医療の開発につとめてきたことか。どれだけの人々が以前には諦めるしかなかった病いから救われ、死を免れたことか。そして次々と新しく発見される病気や今なお治療法が見つからない難病を前に、さらに一層の医学の発展を誰もが望んでいるのである。

しかしまた一方で、現代医療を万能視してはいけない。病気に限らず私たちは苦境に陥ると、わらにもすがる思いを抱きがちである。(3) 現代医療は自然科学というもつとも合理的な探究に立脚した高度な技術であるだけに、専門家以外の人々は過剰な期待を膨らませてしまう。実はさまざまな問題を引き起こしているひとつの原因が、この切実だけれど過剰で勝手な願いや夢と医療の最先端の実態とのずれである。

ここには、複雑なものをできるだけ単純化して理解したいという人間の心理も働いているだろう。人が病気にかかり、治るといふ過程にはとても複雑な要因がからみ合っている。ウイルスにさらされて、風邪をひく人とひかない人がいる。ほぼ同じ病気に同じ治療法で、治る人と治らない人がいる。なぜだろうか。心身のもととの水準が違う。病原以外の環境や条件が違う。こ

んなことはほんとうは当り前のことである。ところが、一九世紀以来の、病原とそれに対する有効な薬物療法や病気の身体部分に対する手術療法に慣れてしまった現代人は、他の条件が異なっても、それさえやれば単純な因果関係で必ず治るものと、単純化してしまうのである。

(4) 病気になった身体の中では実は、複雑な条件を引きずりながらのちのちの力が、これまた複雑な要素を伴った、その病原を主勢力とする身体を傷める要因の連合軍と戦っているのである。多くの病いでその主勢力を薬などの援軍の力によって打ち倒すことは最重要なことではあるが、ちょうど野球で四番打者だけ打ち取れば勝てると思うようなカンチガイに陥るのではないだろうか。病気はもつと複雑である。病原をたたくよりもいのちの力を強めるように働きかける方が効果のある場合もある。例えば、戦後の最貧状況で結核に苦しんだ日本人にはストレプトマイシンの効力の印象が強いが、もつと早い時期から使いはじめた英国での疫学的研究によれば、結核の治癒には抗生物質ではなく保健衛生と栄養状態の改善が相関していたのである。

(7) 高度医療によって促進された単純化は、さらに民間の健康食品や疑似薬品の氾濫にも見られる。何かこれこれによいとテレビ番組で紹介されるとその数時間後には街の売り場からその食品が消えてしまうし、何かでがんが治ったという記事が新聞や雑誌に載らない日はないほどである。逆に、体に悪い食品や嗜好品、薬の話も満ちあふれていて、現代人は不安になるばかりである。まるで、先祖の罪がたたっているから祈禱や寄付が必要とおどかさず似非宗教と同じである。こういうものは総じて不安産業と呼ばれる。(8) 下手をすると現代医療もその傾向を帯びはじめているかもしれない。それらは、手取り早く原因を片付けてしまいたいという思いから、複雑な要因や条件の中から目につくものだけをたたき回るもぐらたたきゲームにはかならないのである。病気の早期発見をめざす集団検診も最近そのコウザイが取りざたされている。もともとこれは国民全体の健康増進をはかり、感染症や成人病の予防につながるものである。その背後には、富国強兵や産業振興のための国策があったし、健康保険制度の存続にかかわる医療費ヨクセイの思惑もある。しかし集団検診がはたしてほんとうに健康増進にむすびついているかは実証されていない。有名なメイヨー・クリニックの調査がある。肺がんの検診を受けた群と受けなかった群とで肺がん死亡率の差が認められなかったというものである。しかし日本でも他の国でもこれを上回る調査はされていないので、正直実態はわからない。やら

ないよりはましだという考えもあるだろう。それどころか、これをきっかけに早期発見されて助かっている人が大勢いるではないか。そうである。個人にとっては自分で気をつけて診断を受けることはとても重要なのである。取りざたされるのは集団で実施するのが社会的総費用と効果の点でどうかという社会的視点からである。しかし個人にとっても考えるべきは、ひとつは余計な不安を生み出しているのではないかという点と、もうひとつは個人それぞれに自分の

(11) の声を聞くことをないがしろにさせる結果になっているのではないかという点である。忙しさにまかせて心身の変調に気づけない。それは定期集団検診におまかせの態度から来てはいないだろうか。

便利さや有用性が現代人を振り回している例は現代医療にも多く見られる。X線や磁気による高度な診断装置（CTやMRIなど）が発達した。日本には世界中の六割の装置があるという。とても高価なのに至る所にある。その減価<sup>(12)</sup>シヨウキヤクのため、健康保険の支払い制度も利用して、不必要に検査が繰り返される。しかしX線のほうは受診した人たちのがん発生率が三倍以上高いという調査が二〇〇四年になって英国から出された。日本では風邪でも抗生物質を処方する医師が多く、それを不思議に思わない患者も多い。ウイルスに細菌退治の薬は効かないのに、安易な大量処方<sup>(13)</sup>が深刻な耐性細菌を生み出している。これらは、もともとの「何のために」があいまいになって手段の便利さだけがありがたがられている例であり、医療技術そのものよりも、医療システムや制度から生じる問題である。

文明の利器は私たちを怠け者にする。現代医療の場合はこれまで見てきたように、その高度の専門性のせいで、病いにかかった患者が自分の心身や生き方を考えるという点に関して怠けさせる結果になったのである。最近よく聞かれるようになったインフォームド・コンセント（説明された同意）はようやく、この怠け患者の医療へのおまかせ主義と言ってよいパターンリズムへの反省から、治療を自分の生き方に織り合わせて患者が自ら考えなければいけないというごく当り前の姿に戻つつある。ただしこの当り前が難しい。専門家と同じ知識水準になるのが難しいと言う意味ではなく（その必要もなく）、自分の生き方に織り込むときの前提、複雑な病気は治りきらないという事態に気づきにくいという難しさである。

（工藤和男『いのちとすまいの倫理学』による）

注　メイヨー・クリニック……アメリカ合衆国ミネソタ州にある世界最大級の医療センター。

〔問一〕 傍線(5)(9)(10)(12)のカタカナを漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと)

〔問二〕 傍線(2)(6)の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

〔問三〕 空欄(1)(3)(4)に入れるのもっとも適当なものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。ただし同じものを繰り返して用いてはならない。

- A なぜなら      B しかし      C あるいは      D 逆に      E つまり      F ところで  
G ましてや

〔問四〕 傍線(7)「高度医療によって促進された単純化」とはどのようなことか。その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 医療の進歩によって病原が明らかになり、それに対応する治療法も発見されると信じること。  
B 合理的探究による高度技術によって、病気にかかってから治るまでのプロセスが明瞭化したこと。  
C 高度医療が進むにつれ、病気に関して複雑なものを単純化したいという人間の心理が強まること。  
D 医学が発展することによって、病気の複雑なメカニズムが解明され、病気が減少していくこと。  
E 現代医療が、かつては複雑に見えた病気のメカニズムが実は単純なものだと証明したこと。

〔問五〕 傍線(8)「下手をすると現代医療もその傾向を帯びはじめているかもしれない」とあるが、筆者は現代医療がどのような

傾向を帯びる可能性があると考えているのか。もつとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 現代人によって万能視されている現代医療が、病原のみをたれば病いは治ると信じさせてしまう傾向。
- B 現代医療が高度になり一般の人には理解できないため、患者が専門家にまかせがちになってしまう傾向。
- C X線や磁気による高度な診断装置が開発されると、患者が必要以上に検査を受けようと思ってしまう傾向。
- D 現代医療が提供する情報によって不安をかきたてられた人々が、現代医療への依存を強めてしまう傾向。
- E 社会的総費用と効果をかえりみることなく、新しい装置や治療法が次々と開発されてしまう傾向。

〔問六〕 空欄(11)に入れるのもつとも適当な三字以上五字以内の語を、本文中から探し出して答えなさい。

〔問七〕 次の文ア～ウのうち、本文の主旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 治療法が確立されていれば病いは根治すると信じているから、治療のあり方を患者が自ら考えることを怠けてしまい、患者の医療へのおまかせ主義を招く結果となった。

イ 一九世紀から二〇世紀のあたりで医学は圧倒的な発展を遂げたが、それに伴い開発された医療技術が近年になって、深刻な耐性細菌問題を生み出すこととなった。

ウ 安心感を得るために受けたはずの集団健診であるが、受けたからといって必ずしも健康増進が保証されるわけではなく、受けたことであって余計な不安を生み出すこともある。

二 次の記事を読んで、後の問に答えなさい。(30点)

「哲学者」がどんなに頑張っても、有限な存在である人間の言語を使って思考する限り、形而上学的な前提を全面的に排除することはできない。「精神」とか「物質」とか「真理」とか「正義」などの、それ自体としては知覚できないものが一応ある」という前提に立たないと、他人に通じるような言葉で自分の思考を表現できないし、自分でも自分が何について考えているのか分からなくなってしまふ。

そうした言語による制約のことを忘れて、ある哲学者の鋭い言葉によって「真理」が完全に表現され切ったかのように思ってしまうと、気付かない内に、特殊な形而上学の「世界」にはまってしまうということがある。特に「比喩」的な表現には要注意である。「比喩」的表現は、語った本人の意図——<sup>(1)</sup>そもそも「本来の意図」というべきものがあると仮定した場合の話だが——を超えて一人歩きし、信奉者たちの集団を大きくミスリードすることがある。この場合の「比喩」的というのは、修辞学などで厳密に定義される、狭い意味の「比喩＝文飾 trope」ということではなく、(2) のことである。

例えば、「○○という概念を把握する」という時の「把握する」というのは、当然、別に手でもとらえてしっかり握り締めることではない。しっかり「掴んで握り締める」というイメージによって、極めて抽象的な事態を表現しているのである。「概念」を意味する英語の <concept> やドイツ語の <Begriff> は、語源的には「掴んで握り締めること」を意味する。また、「△△という前提から出発して、体系を構築する」という時の「構築する construct, konstruieren」というのは、「体系」を建造物に見立てた「比喩」的表現である。

よくよく考えてみると、我々は日常生活において、はつきりした形のない抽象的な事柄を表すために、「抽象的なもの」を「具体的なもの」でたとえる「比喩」的な表現を無自覚的に使っている。「抽象的なもの」を具体的に表現するための比喩的表現は、文化ごと、言語圏ごとにバリエーションがあり、その言語を使用する人間の思考様式をかなり規定する。これらの比喩的な表現がないと、日常的なコミュニケーションに困難を来すのは明らかである。

更に言うと、「具体的なもの」で「抽象的なもの」を例える営みは、言葉と言葉の間の繋がり<sup>つな</sup>に限定されるわけではない。我々は、抽象的な言葉からその言葉が示す「もの」をイメージする際にも、「具体的なもの」のイメージを借用している。例えば、「故郷」という言葉が指し示している「もの」について考えてみよう。

「故郷」というのは、よく考えてみると、地域的にどこからどこまでを指すのか境界線がはっきりしない。また、「故郷」を構成するものとして、土地、家屋、庭、井戸、道、池、川、丘、森林、草、動物、住民、住民の生活様式、伝承、慣習……など様々の原因が考えられるが、どの要素がどれくらいの規模でどのような形で集まったら、「故郷」になるのかははっきりしない。そのため、我々は通常「故郷」という言葉によって、自分の記憶の中にある最も印象的な一風景のようなものをイメージ化——現代哲学・思想では、イメージ化することを「表象」再現前化 represent という言葉で表すことが多い——する。同郷の人間同士であっても、記憶の中の「故郷」の具体的なイメージが全面的に「一致する」ことはありえない——無論、本当に「一致」したか否かは当人たちの「心の中」まで覗き込む<sup>のぞ</sup>ことができない限り、確認しようがないわけであるが。

法・政治的な単位である「町」「市」とか「県」「国」等になると、概念規定が一層抽象的になる。「国」をイメージ化（表象）しようとする時、地図とか国旗とか、サッカーの試合とか、古都の寺とか、都市の雑踏とか、自分の故郷とか……個人によって、その時々気分、文脈によってイメージがかなり多様になる。「哲学」的な議論にもよく出てくる「環境」とか「空間」とか「世界」になると、あまりにも抽象的であり、どうにでもイメージできてしまう。「環境」「空間」「世界」という言葉でお互いにどういふものをイメージしているのかについて、きちんとした了解がないと、話が通じなくなる。

こうした「比喩」的な表象によって支えられている抽象的な言葉を使って構成される人間の思考には、(3)に曖昧なところが多く含まれるが、「哲学」はプラトン＝ソクラテス以来、どうにでも取れてしまうような曖昧な言葉遣いを排し、正確に概念規定された言葉のみによってクリアに思考を進める道を模索してきた。比喩的な言い回しは、議論の本筋とはあまり関係ない、息抜きのエピソード的な部分での使用に限定しようとする。



しかしながら、哲学的な諸「概念」を厳密に規定しようとする、いろいろな抽象的な要素を持ち込まざるを得ず、その分だけ、余計に比喩的な曖昧さを増してしまうという

(4) な事態が生じてくる可能性がある。

デカルトは、「明晰かつ判明 clair et distinct」であることを、真理の基準にしようとしたが、この言い方自体が既に「光」の「比喩」に依拠している。デカルト以降の西欧近代の哲学者の多くは、「私」にとつての真理の「現われ」——「現われ」登場場≡外観 appearance」といふ言い方もかなり「比喩」的である——を、光が部屋の内（≡意識の内面）に差し込んでくるといふ「比喩」的なイメージで理解してきた。このイメージに引つ張られると、いつのまにか「私≡自我」といふ「存在」を、真理の「光」が差し込んできた「室内」あるいは、その「光」を受ける「窓」として表象する癖がついてしまう。また、「○○の視点から見ても」といふ言い方をする時には、「(5)」と光線」の「比喩」を使っているし、「○○の立場に立つて」といふ言い方だと、「足（台）」と「地面」の「比喩」を使っていることになる。

このような「比喩」を何気なく使って思考していると、見えないはずの抽象的な「もの」を「見ている」かのごとき語り方になったり、自分が何らかのしつかりしたお立ち台の上「立っている」かのごとき語り口になったりする。

こういうことの一つ一つは「些細な比喩」<sup>(6)</sup>、もしくは「単なる語り口の問題」であつて、真理探究の営みである「哲学」の本質とは関係ないと豪語する哲学者もいる。しかし、遡<sup>さかのぼ</sup>って考えてみると、まるでコンピューターのように厳密で論理的な語り口ができる「立派な哲学者」であつても、彼あるいは彼女は彼女は、その成長の過程で、言語・文化圏ごとにバリエーションのある様々な「比喩」関係の助けを借りて、言葉を覚え、自分なりの思考様式を発達させてきたわけである。「形而上学」から逃れられないのと同様に、それと不可分の関係にある「比喩」的な理解の連鎖を全面的に逃れることはできない。曖昧さ、冗長さを排して、最小限に必要な言葉だけで構成される「厳密な語り」をしていても、とんでもない比喩的な連想の中にはまっている可能性はある。

そうした言語が不可避的に有する「比喩」的な性格ゆえに、哲学者たちがどんなに頑張つても、一定の「比喩」的連関と結び付いた形而上学的な世界観を抱いてしまうことを、自らの「哲学」のテーマにしたハイデガーやデリダのような「哲学者」もい

る。彼らの書いた文章はいろんな種類の「比喩」や言葉遊びがやたらに多くて、普通の意味で「論理的」にあっさり読めない。修辭的・付隨的に「比喩」を使っているというより、「比喩」と「比喩」を繋ぎながら、文章を綴つづっていると思える場合もある。

(7) に「比喩」を使うことで、「哲学」が「比喩」と付き合わざるを得ないことをパフォーマンスとして示しているわけである。

(仲正昌樹『へ宗教化』する現代思想』による)

〔問二〕 傍線部(1)「ミスリードする」、(6)「豪語する」の意味としてもっとも適切なものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

(1) ミスリードする

- |   |           |
|---|-----------|
| A | 誤った方向に導く  |
| B | 失敗に陥らせる   |
| C | 常識から逸脱させる |
| D | 行き過ぎさせる   |
| E | 先導しそこねる   |

(6) 豪語する

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| A | 人を見下した言い方をする                  |
| B | 乱暴な言葉で怒鳴り立てる                  |
| C | 自分の意見を強硬に主張する                 |
| D | 自信たっぷり <small>た</small> に断言する |
| E | 偉そうに大きなことを言う                  |

〔問二〕 空欄(2)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 概念規定することのできない抽象的な事柄を、分かりやすくイメージするための便宜的な表現一般
- B はっきりした形をもたない形而上学的な事柄を、分かりやすくイメージするための代用的な表現一般
- C 現実世界に存在することのない抽象的な事柄を、分かりやすくイメージするための慣例的な表現一般
- D 実際に知覚することのできない抽象的な事柄を、分かりやすくイメージするための便宜的な表現一般
- E 本来的には思考不可能な形而上学的な事柄を、分かりやすくイメージするための慣例的な表現一般

〔問三〕 空欄(3)(4)(7)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。ただし同じものを繰り返し用いてはならない。

- A 肯定的
- B 不可避的
- C 意識的
- D 相対的
- E 限定的
- F 逆説的
- G 無自覚的
- H 合理的

〔問四〕 空欄(5)に入れるのにもっとも適切な一字の語を答えなさい。

〔問五〕 次の文ア、エのうち、本文の主旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 言語の「比喩」的な性格をパフォーマンスとして示す一部の哲学者は、「哲学」と「比喩」の不可分な関係への反省をおととして、形而上学的な前提を部分的に排除することに成功している。

イ 「比喩」的表現は、「具体的なもの」のイメージを媒介に抽象的な言葉の指示対象を表象する行為に依拠しているので、人間の日常的な思考とコミュニケーションを妨げる原因となる。

ウ 人間の思考は言語に本質的に備わる「比喩」的な性格によって規定されるが、この点に無自覚な者は、一定の「比喩」と結び付いた形而上学的な世界観に我知らず陥るものである。

エ 曖昧さを排した言葉を用いて思考を進めることが古来より続く「哲学」の本義である以上、「哲学」における抽象的概念は、「比喩」的表現をできる限り避けて厳密に規定するべきである。

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(30点)

季繩すまなほの少将、病やまひにいたうわづらひて、すこしおこたりて内裏うちに参りたりけり。<sup>(1)</sup> 近江あよみの守公忠かみんただの君、掃部かもりの助すけにて藏人くらうどなりけるころなりけり。

その掃部の助に会ひて言ひけるやう、「みだり心地はまだおこたりはてねど、いとむつかしう心もとなく侍ればなむ参りつる。のちは知らねど、かくまで侍ること。まかり出いでて明後日あさばかり参りこむ。よきに奏あしたまへ」<sup>(2)</sup>など言ひ置きてまかでぬ。

三日ばかりありて、少将のもとより文をなんおこせたりければ、

悔くしくぞのちに会はむと契りける今日けふを限りと言はましものを<sup>(3)</sup>

とのみ書きたり。

いとあさましくて、涙をこぼして使ひに問ふ。<sup>(4)</sup>「いかがものしたまふ」<sup>(5)</sup>と問へば、使ひも、「いと弱くなりたまひにたり」と言ひて泣くを聞くに、さらにえ聞こえず。「みづからただいま参りて」と言ひて、里に車とりによりて待つほどいと心もとなし。<sup>(6)</sup> 近衛このゑの御門に出でたちて、待ちつけて乗りて馳はせ行く。

五条にぞ少将の家あるに行き着きて見れば、いとみじうさわぎののしりて門さしつ。死ぬるなりけり。消息言ひ入るれど、なにかひなし。いみじう悲しくて泣く泣くかへりにけり。

かくてありけることを、上の件かむ奏くだりしければ、<sup>(7)</sup> も限りなくなむあはれがりたまひける。

〔大和物語〕による

〔問一〕 傍線部(1)「すこしおこたりて」、(2)「よきに奏したまへ」、(4)「あさましくて」の解釈としてもっとも適当なものを左の各群の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

(1) すこしおこたりて

- A 少しの間つとめを休んで  
B ちよつと病気がよくなって  
C 少々病状が悪化して  
D わずかばかり遅刻して

(2) よきに奏したまへ

- A みんなによくお伝えください  
B わたしにいいことだけお伝えください  
C お上によく申しあげてください  
D 上手に和歌をさしあげてください

(4) あさましくて

- A 意外なことに驚いて  
B あまりのことに気分が悪くなって  
C 歌に風情がなく興ぎめで  
D 急に病状が悪化して

〔問二〕 傍線部(3)「今日を限りと言はましものを」の解釈としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 会うのは今日が最後だと、わたしに言ってくればよかったのに
- B わたしの命は、今日で終わるとあなたに言いたいの
- C わたしのところに通うのは、今日が最後だと言ってくださればよかったのに
- D 今日限りで仕事をやめるつもりだと、あなたには言っておきたかったのに
- E お会いするのは今日が最後と、あなたにお別れを言えばよかったのに

〔問三〕 傍線部(5)「いかがものしたまふ」の解釈としてもっとも適当と思うものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A あなたはどのようなご用件でいらしたのですか
- B 少将のご容態はいかがですか
- C あなたはどのようにしてここにいらしたのですか
- D 少将はどのような手紙をお書きですか
- E どうして約束をお破りになったのですか

〔問四〕 傍線部(6)「いと心もとなし」に現れている心境の説明として、もっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A さっさと宮中から退出したいのに、自宅から車がやってこないで、本当に来るか不安にかられている。
- B 使いを送ってやりたいのに、自宅まで車をとりに戻るのに時間がかかり、じれったく思っている。
- C 少将の容態がまったくわからず、自分で確かめに行きたいのに、自分の車がないので困っている。
- D 早くお見舞いに行こうと気が急いでいるのに、自宅からなかなか車がやってこないことにあせっている。
- E 少将からの車がなかなか来ないので、本当に迎えに来てくれるかどうか、不安に思っている。

〔問五〕 空欄(7)に入る言葉としてもっとも適当と思うものを左の中から選び、それぞれ符号で答えなさい。

- A 季繩
- B 公忠
- C 使ひ
- D 里
- E 帝